みんな よくなれ

令和七年三月二十一日発行

２９回生通信
第５１号

普通の日常が「青春」になる

29回生の卒業式が行われました。

みなさんが卒業した令和七（2025）年の三月は、二期目のトランプ大統領が就任し大統領令を連発しています。ウクライナでは、ロシアとの戦争が三年を超えました。兵庫県では、知事の言動に対する百条委員会が調査報告書をまとめましたが、県政は混乱をしています。このように世界や地域の情勢を見ると、とても不安定に思えます。

考えてみると、若者を迎え入れる社会が、平和で豊かで理想的であったことはありません。理想の社会ではないから、若者は理想を求めるのかもしれません。もっと良い社会の実現を目指したり、真理の追究に邁進したりするのは、いつの時代も若者です。

29回生のみなさんの活躍を社会は待っています。みなさんの中には世界で活躍する人もきっと現れるはずです。一方で、会社や地域社会で、なくてはならない存在になることも大切なことです。みなさんが、与えられた場所でそれぞれに活躍される未来がやって来ようとしています。どうかお健やかで、そしてご活躍ください。

さて、学年通信は最終号になりました。

まず、卒業式での答辞全文を掲載します。附属での三年間は過ぎ去ってしまいましたが、十年後、二十年後にこの答辞を読んでもらうと、高校時代が鮮やかに思い出されるのではないかと思います。十年後、二十年後に答辞を読む人なんて、そんなにいるとは思いません。でも、その答辞を読んでいる人は、きっと勇気をもらっているはずです。高校生活の三年間、自分は確かに附属の29回生であった。県下各地から集まった友だちと一緒にいた。答辞を読むとこんな思いを持てます。答辞にあるように「普通の日常が私たちの青春」であり、「今後の人生において私たちの背中を押してくれる」のです。

また、同窓会の幹事をしていただくことになった五名の幹事就任の挨拶を掲載しています。さらに、卒業式で表彰された人、記念品贈呈などで役割を果たした人の感想も載せています。ご覧ください。

もう紙幅がありません。みなさんの活躍を通信は報告してきました。これまでの通信には、附属での29回生の確かな足跡が記されています。みなさんの高校生活は「普通の日常」が青春そのものであり、輝きに満ちたものでした。同じように、大学生や社会人になったみなさんの「普通の日常」も「青春」と等価の輝きに満ちたもののはずです。

最後になりましたが、みなさんのこれまでの寄稿に感謝します。

答辞

厳しいテクノの寒さの中に、少し春の暖かさを感じられる季節となりました。本日は、私たち二十九回生のためにこのような素晴らしい卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。

また先生方をはじめ、本日ご臨席くださいましたご来賓の皆様、保護者の皆様、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

今、私たちは共に過ごした仲間や附属高校との別れに寂しさを感じると同時に、これからの未来への期待に胸を膨らませています。長いようで一瞬に過ぎ去った三年間の高校生活が幕を閉じようとしている今、たくさんの思い出が溢れかえってきます。

入学早々に行われた蒜山での合宿では、まだ名前を覚えきれていなかったクラスメイトとの距離が一気に縮まりました。三十キロウォークの後の夜のキャンプファイヤーでは、当時の小倉校長先生が火の神の衣装で松明を持って、暗闇の中登場しました。水の神の中島先生との激闘の末、火の神が勝利をおさめ、キャンプファイヤーに点火しました。その後、キャンプファイヤーを囲んで、ゲームで盛り上がったことも鮮明に思い出されます。他のクラスの子とも話すことができて、二十九回生の絆が深まりました。

二年生では、ずっと楽しみにしていた台湾への研修旅行。コロナの制限が緩和され、私たちの代から海外への研修旅行が再開されました。現地の大学生に流暢な日本語で案内をしてもらい、タピオカや小籠包を食べました。台湾では、電車の中は飲食禁止だったり、ほとんどの飲食店が回転テーブルだったり、日本にはない文化にたくさん触れることができ、視野が広がりました。

三年生の文化祭では、各クラスの個性が前面に出た模擬店を出店しました。どのクラスも宣伝に力が入っていて、ステージでのＣＭもお店の看板もみな素晴らしかったです。そして商品は、全クラス早々に完売することができました。

勉強に追われる中、高校生活最後の行事の体育大会。部活引退後だと思わせない活発さで、全員が全力で挑みました。学年対抗の綱引きでは、私たち二十九回生のトレードマークである元気いっぱいの団結力で盛り上がりました。総合成績では、二クラスが同率優勝、二十九回生全クラスが全体順位の六位以内を占める好成績を残しました。熱い応援と選手の熱意が重なった「最後」の体育大会でした。思い出は語り尽くせません。

こんなにたくさんの思い出を一緒につくりあげてくれたのは、先生方でした。二十九回生の学年団の先生をはじめとする附属高校の先生方。「みんなよくなれ」という学年通信の名前の通り、私たちの成長を一番近くで見守り、支えてくださいました。先生、自由奔放な生徒が多い学年でしたが、私たちはきちんと成長できたでしょうか。これから、世界のパイオニアを目指して旅立つ私たちを見守っていてください。こんなに素敵な先生方に出会うことができて本当に良かった。ありがとうございました。

そして、十八年間私たちを支え、応援してくれたお父さん、お母さん。時には意見が食い違って喧嘩をしたり、素直になることができなかったりしたこともありました。普段はなかなか言えない言葉も、今日なら言える気がします。家族の支えがあったからこそ私たちはここまで大きくなることができました。大切に育ててくれて、ありがとう。優しく、時には厳しいお父さんとお母さんが大好きです。

在校生の皆さん。先程は心温まる送辞をありがとうございました。生徒会活動や部活動、そして寮生活などで関わることが多くありました。後輩の皆にとって、送辞で言ってくれたみたいに良い先輩だったでしょうか。高校生活の三年間は一瞬で過ぎ去ってしまいます。今ある当たり前を大事にしてこれからの高校生活も全力で楽しんでください。

最後に二十九回生のみんな。たくさんの行事を一緒に経験してきましたが、三年間を振り返ってみんなの心に残っているのは、教室で過ごした何気無い日常なのではないでしょうか。

授業の間の十分の休憩時間に、はしゃぎすぎて先生に注意されたこと。バス通学で光都に上った途端、真っ白な雪景色になっていて驚いたこと。その雪で友達と一緒に遊んだこと。グラウンドのシカの糞をよけながら体育をしたこと。夏は猛暑、冬は極寒の中でバスを待ったこと。こんな普通の日常が私たちの青春だったのです。山の斜面に立つ校舎のために階段が多くて、しんどいと不平を言ったこと。建築家の安藤忠雄さんの名前を出すのも今日が最後です。

附属高生としての日々が今日で終わってしまうのは、寂しく名残惜しいです。しかし、これらの思い出が今後の人生において私たちの背中を押してくれるはずです。すごく寂しいけれど、私がこの答辞を読み終えてしまえばいよいよ卒業です。私はこの学校が、二十九回生のみんなが大好きです。

このメンバーだったからこそ、たくさんの壁を乗り越えることができました。みんなのおかげで楽しく、幸せな高校生活になりました。ありがとう。みんなもそう思ってくれていると嬉しいです。これからそれぞれの目標に向かって別々の道を歩んでいきますが、つまずいたりくじけたりしそうになった時は、光都で過ごした三年間を思い出そうと思います。私たちをきっと励ましてくれるはずです。二十九回生の皆が、これからも元気に楽しく、個性溢れる充実した新生活を送れることを願っています。

最後になりましたが、三年間お世話になったすべての方々にお礼を申し上げるとともに、兵庫県立大学附属高校のますますのご発展を願って、答辞の言葉といたします。

令和七年 二月 二十八日

兵庫県立大学附属高等学校
第二十九回 卒業生代表　深澤莉緒

教育実習の申し込み

附属の教育実習は、六月初旬となっています。教育実習の申し込みは、教育実習を希望する年の前年の四月～五月に附属高校の教務に申し込んでください。それ以降の申し込みは受け付けられません。附属高校ＨＰの「卒業生のみなさんへ」から申込用紙をダウンロードし、来校または郵送で申請します。来校については事前に電話で予約してください。

同窓会幹事の挨拶

29回生の同窓会幹事を紹介します。
幹事のみなさん、お世話になりますが、どうぞよろしくお願いします。

同窓会学年代表幹事（兼二組クラス幹事）

二組　深澤　莉緒　さん

個性溢れる29回生

29回生同窓会幹事、学年代表になりました深澤です。卒業式の前日に、ホームルームで急に枝澤先生から指名されて驚きましたが、また29回生で集まるときのきっかけとなる役割に就けたことをうれしく思います。これから充実した新生活が始まり、忙しくなっていくと思いますが、久しぶりにみんなで集まれる機会を楽しみにしています。みんなの個性がさらに成長して、今よりも個性溢れる同窓会になることを期待しています!!

同窓会クラス幹事

一組　明石　優衣　さん

これからも楽しい29回生に!!

29回生の同窓会幹事になりました。明石優衣です。予行の日の朝に田中先生から「幹事してくれる？」と言われ、びっくりしましたが、卒業した後もみんなで集まれる機会を作れるように一生懸命取り組みたいと思っています。三年間楽しい学校生活をありがとうございました！またみんなで集まれることを楽しみにしています！これからも楽しく明るい29回生にしていきましょう！

三組　渡辺　拓心　さん

再会の日まで

この度は同窓会幹事に任命していただきありがとうございます。みなさんが卒業した後でも29回生としてつながりをもっていられることを期待して、幹事を務めさせていただきます。それぞれ自分の進路に進んでいって、全く違う生活をするようになると思いますが、同窓会として集まった時だけは、一緒に過ごした高校生活を思い出してお互いの思い出を語り合いましょう。次は同窓会で、また会う日まで。

四組　植田　賢斗　さん

また逢う日までお元気で

皆さんどうも植田です。三年間みんなありがとうございました。同窓会幹事になりましたが、意外と書くことないですね。まあでもこれからみんなで集う会を取り計らう役割なので光栄だと思います。卒業した今思うことは、学校生活一瞬でしたね。ほんまビュン！くらい一瞬でした。みんなで集まる会があと何回人生であるかわかりません。全力で同窓会幹事の仕事を全うしたいと思います。ほなまた逢う日まで。

五組　米本　春樹　さん

幹事は感情が肝心

私はみなさんが安心して同窓会を行えるような幹事になれるよう努めます。特にお金の勘定や時間軸、漢字などは正確にします。しかし私は春から環状線の多い名古屋の民間人になるため、兵庫で同窓会を開くときは誰か兵庫にいる人に手伝ってもらうかもしれないです。そのときは、交換条件として軍艦島へ連れて行ってあげようと思います。またみんなで集まったときは、イオン交換樹脂や開環重合など懐かしさを感じる化学クイズをしましょう。

各賞受賞者と代表者のコメント

創進賞

五組　安川　弥来　さん

クリスタルの盾の重みは約1kg

部活に勉強、文化祭での劇やバンド、体育大会や球技大会、・・・思い返すと高校生活の三年間、自分のやりたいことばかりやってきた気がする。そんな三年間が評価され、創進賞を頂けたことがとても誇らしい。これは自分の力だけで成し遂げたのではなく、周囲の方々のおかげでもあると思う。皆様には心からの感謝を申し上げたい。最後に、百人GL一首に一緒に出てくれた竹中に特大の愛を伝えて、創進賞の感想とさせていただく。

創進賞授与式後の記念写真　於総長室

学校賞　全十九名

みんなありがとう

先日、僕を含めた二十人が学校賞・創進賞として表彰されました。表彰していただきありがとうございます。さて、最後の機会なのでたいこと書きます。高校生活お疲れさまでした！僕は周りに助けられて生きてるので、本当に全ての関わった人たちに感謝です。この29回生のメンバーだからこそ、どんなこともたし、楽しめたと思います！本当にありがとう！お互い頑張りすぎないほどに頑張ろう！それじゃあ、またいつか！

五組　中井　翔一朗　さん

皆勤賞　全十四名

毎日通った思い出の学校

私は皆勤賞をいただいて素直に嬉しかったです。疲れていたり、気分が乗らない日は学校を休みたいと思うときも多々ありました。学校に着くと七時間目までという長い授業があんどかったけれど、友だちと会うことで気分が上がり最後まで乗り越えられたと思います。休まずに学校に行くということは簡単なようで難しいことだと思うので、最後まで休まずに学校に行っていた自分を褒めてあげたいです。楽しい高校生活を送れて良かったです。

四組　尾崎　梨乃　さん

卒業証書授与代表

出会いの花

みんなと出会った日、桜の花が咲いていたのをよく覚えています。出会いに相応しい花だと心を踊らせていたあの日からもう三年も経つなんて、時の流れは本当に早いです。名残惜しい気持ちもありますが、たくさんの祝福を受け卒業できて本当に嬉しいです。今までたくさんの別れと引き換えに新しい出会いを経験してきました。桜が咲く日にみんなに出会えたように、また桜が咲いたら素晴らしい出会いが待っていると信じて前に進みます。

三組　東本　花　さん

記念品贈呈代表　29回生から附属高校へウォータークーラー

五組　熊橋　拓海　さん

毎年先輩方から卒業記念品を贈呈していただく側から、ついに贈呈する側になりました。29回生を代表して、卒業記念品を贈呈できたことを嬉しく思っています。目録を読み終わり、自席へ帰る際、全校生徒が揃っているのを見て、いろいろな人との繋がりが思い出されると同時に、もう私たち29回生は居なくなるんだな、と実感しました。卒業記念品であるウォータークーラーを在校生・未来の附属生の皆さんに沢山使って頂きたいと思っています。

記念品贈呈代表　同窓会とPTAから卒業証書のフォルダー

一組　福本　愛　さん

高校生活、ありがとうございました

私は同窓会からの記念品の卒業証書フォルダーを受け取らせてもらいました。最後に役割をいただけて、本当に感謝しています。

高校生活三年間を振り返って、長いようで短いような、不思議な気持ちです。私はこれまで両親はもちろん、先生、友人、たくさんの人に支えられて色々なことに挑戦できたと心から思います。これまで私に関わってくれた全ての人に、この卒業式で感謝とこれからもよろしくと伝えたいです。ありがとうございました。

記念品贈呈代表　生徒会からタンブラー

四組　國重　彩花　さん

六年間の思い出

生徒会から卒業記念品としてタンブラーをいただきました。きれいな赤色で、附属高校の校章が印刷されていて見るたびに高校での思い出が甦ると思います。大切に使います。私は中学校から六年間テクノで過ごしたので、これから大学生になって中学・高校の友だちと離れるのが少し不安です。大学では生活も一気に変わって大変なことも多いと思うけれど、一生懸命に頑張りたいと思います。三年間、ありがとうございました。

今後の行事予定（３年生関連）

２０２５年
４月

これからの日々
お健やかに
ご活躍ください